

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>このグループホームは、元々地元の方たちに入って頂くために作られたので、理念もこの事業所のためにつくりあげている。</p>	<p>○</p> <p>周囲の自治会並びに民生委員の方たちに機会がある度に紹介をしている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関、事務所前に提示し、職員に周知させている。職員の採用時、ミーティングや申し送りの時にも理念に基づいた話し合いをするように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>管理者、ユニットリーダーのみが理念について話をするのではなく、職員1人1人が理念に基づいて日常的に話し合いができることを目指している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>グループホーム通信を月一回発行し、各ご家族に送ったり、訪問された方たちの説明に使用している。地域住民・民生委員の見学時にも地域密着型サービスとしての理念をお伝えしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日々のごみ出しや散歩・近所への買い物する時にご近所の方たちと挨拶をしたり立ち話をしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ご近所の教会行事(コンサート・バザー・落語会)、お祭り(だんじり運行)に参加している。</p>	<p>○</p> <p>教会の神父さん夫妻や自治会長さんに行事の案内をして頂き、なるべく参加している。それいゆ会のお祭りには、地域の皆様をご招待している。これからも、交流していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員の集会で地域密着サービスの説明をしたり、市役所の生きがい福祉課と共に認知症の一人暮らしのお年寄りを訪問したりして、地域にかかわっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施し、取り組んでいきたい個々の内容は職員全員に話しているが、評価のねらいや活用方法を全職員が理解するまでには到達していないので今後1つ1つ分かり易く伝えて行きたい。	○	全員が揃うことは難しいので、朝夕のミーティング等で評価のねらいや活用方法を伝え、評価に対しての報告・改善策を検討して行く。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域住民・行政の職員・知見者の方々に毎回テーマごとに意見を頂き、より良いグループホームを目指すためにその意見を生かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	一人暮らしの認知症高齢者の相談等のため、市役所や包括支援センター職員・民生委員の方とともに話し合いの場を提供している。	○	緊急に対応しなければいけない利用者には、シートステイも実施している。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見については、家族等に説明している。	○	管理者、ユニットリーダーのみが理解するのではなく、職員1人1人が権利擁護に関する制度の理解と活用ができるように研修会の参加や勉強会を行う。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についてのマニュアルはあるが、より活用するために、勉強会・ミーティングの中で話し合いをしていく。	○	管理者と職員は高齢者虐待防止関連法の理解を深めるために、勉強会・ミーティング等の中で話し合いをする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にゆっくり時間を取って説明している。一度、契約書を自宅に持ち帰って読んでもらい、サインをするのは後日に行っている。契約を解約する場合についても契約時、また入居者の状態変化により随時説明を行い、相談している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市役所から介護相談員を2～3ヶ月に1度派遣してもらい、利用者の相談にのって頂いている。入居者の言葉や態度から要望や意見を推測し、入居者本位の運営を心がけている。</p>	<p>○</p> <p>今後も入居者の言葉や態度に注意を払い、本人の思いを察する努力をしていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に一度の「かわも」通信にての報告する。家族等の訪問時に行事の写真を見ながら説明し、金銭管理は出納帳の確認をして頂いている。家族の訪問がしばらくない場合は電話で連絡を取り、近況の報告をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を定期的で開催し、ご家族同士話し合う機会を作っている。その中で出された意見・要望は、朝・夕のミーティングや職員会議で話し合い反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝・夕のミーティングでなるべく職員の意見、要望を聞くように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>まだまだ職員の意見・要望が反映できてない場合もあるので、運営や管理についての職員の声に耳を傾けていく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態やペースに合わせた勤務配置を考え、その都度必要に応じて対応をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットごとに顔馴染みの職員が対応することになっている。新職員が入ると入居者によく説明し、新職員にはまず入居者の傾聴から入ってもらっている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部での研修、勉強会に順次参加して学べる機会を作っている。スーパーバイザーの意見やアドバイスを受ける機会を設けている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護事業協会に所属し、施設部会の勉強会や見学会に参加している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員の話聞く機会を設け、職員がストレスをためないように配慮している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。認知症の実践研修・管理者研修等に参加してもらい、よりステップアップを目指してもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に到るまでに、何回か来所してもらい、本人の思いや不安を受け止めるようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談に来られた時に、これまでの経緯について、ゆっくり話を聞くようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に、本人・家族の実情、要望を聞いて何が必要か見極めて、他のサービスまたは事業所を紹介している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に何度か遊びにきてもらい、他の入居者や職員との交流、部屋の雰囲気馴染んで頂くようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者たちは、皆私たちより物知りあり、人生の先輩である。いつも支援する側ということではなく、支援してもらったり助けってもらったりする時もあるように心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	常に家族と共に入居者を支えていく関係を作り上げている。		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と入居者の関係がいつも良い状態であるように、家族には入居者の様子を頻りに伝え、各行事には家族をお誘いしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らすお友達に遊びにきてもらったり、行きつけのお店に食事に行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の良い関係が保てるように、個別の話を聞き、相談にも乗り、一緒に会話を楽しむことにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他へ入院等されてもその後の相談にもかかわっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご入居者1人ひとりの思いを聞き、暮らし方の希望・意向を把握するようにし、意志疎通が困難な方にはご家族等から情報を得ている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人とは日々の関わりの中で、ご家族とは訪問時に少しずつお聞きし、どのような生活をされていたか把握するように努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者のできることを1人1人把握して、なるべくご自分で頂くように、職員全員で支援していくことを心がけている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人とは日々の関わりの中で、ご家族とは訪問時に、それぞれの思いや意見を聞き、運営推進会議等での意見も含めて、職員で話し合い介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、状態が変化した時はもちろん迅速に、新たな変化がない場合でもご本人や家族の要望を取り入れながら見直しを行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者1人1人のファイルを用意し、日々の身体状況及び暮らしの様子や本人の状態の変化を記録し、介護計画の見直しや評価に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かしてその利用者の負担となる受診・入院を避けて、往診や医療処置を身近で受け、ご本人・ご家族に喜ばれている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホームを必要に応じて、地域の方・民生委員等のミーティングの場にも利用してもらい、地域に開かれたホームを目指している。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用したり、地域のミニコンサートに行かせて頂いたりしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要と思われる入居者には、地域包括支援センター・市役所・民生委員等と協力して利用できるよう支援している。		今後、地域と協力して勉強会を開いていく予定である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医で、入居後も医療が受けられるに配慮している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に精神科・精神内科のクリニックがあり、ご入居者のことを相談したり、受診したりと支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を活かして、診療所の訪問看護ステーションはもちろん、診療所の外来・病棟の看護師とも相談、助言、対応を行ってもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人の情報を詳しく提供し、職員は病院へ頻繁に見舞い、家族ともよく連絡を取り合っている。主治医からは、なるべく早く退院できるよう支援をして頂いている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム側とご家族と看取りについて話し合い、ご本人の希望も聞き、主治医・看護師を含めて全員で対応の方針をきめている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人やご家族の希望や不安な気持ちを踏まえて主治医、職員、医療機関が連携を取り安心した終末が得られるよう対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>グループホームから病院や施設や自宅へ住み替えをする場合、今までの生活のスタイルが続けられるように情報提供している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご本人の尊厳を守る介護を目指す為に、職員全員の意識向上を図っている。</p>		<p>職員の何気ない言葉や態度でご入居者が傷つけないように、事業所で話し合いを日々おこなっている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご入居者の意思を尊重する為に、ご自身の選択の場面を作っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームの1日の大きな流れは決まっているが、1人ひとりのスケジュールはご自身で好きなように過ごして頂いている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身に着ける洋服のコーディネートは、ご自身の好みでされている。理容・美容は今までの行きつけのお店に行かれている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員も同じものを頂くようにしている。食事の準備は、ご入居者・職員全員でしている。		
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事の好みは、それぞれ異なるのであるべく偏らないようしかも好みを尊重することを心がけている。嗜好品もお聞きして楽しめるよう支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ち良く排泄をしてもらうことに気を配っている。その方のパターンを把握することに努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は皆とても楽しみなことなので、ご本人の希望を尊重している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ゆっくり睡眠や休息がとれるよう、一人ひとりの生活習慣を把握して支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの役割、楽しみごとに力を発揮してもらう場を作るように支援している。またその人が主役になれる場面のセッティングもしている。		お誕生日会等各行事がマンネリにならないために、ご入居者・ご家族・職員でアイデアを出し合っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、なるべくご自分で支払いをしてもらっている。ご家族から、お金は預かりご入居者の希望により外出・買い物の楽しみを味わって頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望も聞き、外の外気にも触れてもらうため外出は頻繁に行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご入居者の思いや願いを普段よりお聞きしておいて、予め計画を立て、実行する取り組みをしている。		ご入居者の故郷に行きたいとか、ご親戚に会いたい等に関しては、家族の協力を求めながら願いが叶うように支援していく。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、個別でも持たれていて皆さん利用したい時は家族・友人とお話をされている。手紙のやり取りも自由に出来るよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、知人、友人たちがいつでも訪ねて来られるように受け入れはさせていただいている。職員は、訪問者にはいつも笑顔で対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護は、職員のミーティング・事業所内の勉強会・研修等で学ぶ機会を作り取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	駅に近く、前の道路も交通量が多いので、開所当時から暗唱番号の導入にしている。ご家族、ご本人もご存知で出たい時は、開けている。		以前の建物の時に不審者に何回か入り込まれた経緯があり、相談の末暗証番号の導入となっている。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はなるべくご入居者と同じでデイルームで事務作業をし、全体が見渡せる席に着いている。夜間の休憩はデイルーム・居室が見える場所に休んでいる。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	引き出しに物品の名前を貼り、必要な物品は取り出せるようにしている。ご入居者も出したり、しまったりしている。		危険な包丁等は、きちんと管理ができるしまいかたをしている。洗剤・薬品も誤って飲み込まないようにかたづけしている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さな事故に関してもヒヤリハットを書くことを指導し、それを元に事故を未然に防ぐ努力をしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に数回それいゆ会でAEDの勉強会を始めとして、応急手当の研修をしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回ご入居者と共に避難訓練を行っている。マニュアルも作成し、職員の研修にも役立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご入居者に起こり得るリスクについて、ご家族と入居当時から何度も話し合いをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の状況を把握しているので、顔色や体調の変化を見逃さずに対応をするようにしている。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の薬の内容は、全職員が把握できるように薬局からの薬の情報提供書にて入居時にミーティングをしている。服薬時は、本人に手渡し、服薬できているかどうかの確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく自然排便できるよう、身体を動かしたり、繊維質の多い野菜・いも類、乳製品などを日常食に取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけをして、出来る方にはご自分で磨いてもらい、出来ない方には介助で口腔ケアをしている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を毎日記録している。食欲が落ちたり、体重減少・体重増加の場合には、事業所内の管理栄養士に相談している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対して、主治医より勉強会を開いてもらったり、マニュアルを作成したりしている。毎年インフルエンザの予防接種はご入居者・職員共受けられる人は全員行っている。ノロウイルス対策として手洗い、水道のカラン・ドアノブの消毒、ペーパータオルの使用をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所水回りの清潔・衛生を保つよう掃除の取り決めをして、実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口にプランターを置いたり、手づくりのホームの表札を掲示したりしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけには、ご入居者の作品(編み物・習字・篆刻など)を使用して喜ばれている。家具の配置は、ご入居者と一緒に考えて居心地良いディレーム作りをしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダに椅子を置き、思い思いにくつろげるスペースを作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご入居者の一人ひとりのペースを大切に考え、その日をどう過ごしたいのか、希望に沿った支援をするようにしている。ご本人の歩んでこられた生活歴の背景を考えて、その人らしさをなくさず、寄り添い、一緒に過ごすことを職員は心がけている。また、支援の中には、ご家族の思いや希望も考慮して行っている。医療法人設立のグループホームであり、併設の有床診療所、病院(救急指定)と医療面で連携をとっており、ご入居者様だけでなくご家族にも安心していただける生活の環境の整備に努めている。